

水道事業、広域化を推進

「水道事業の広域化」について説明を受けた。

【課題】

津島台浄水場をはじめとする水道事業の主要施設が今後10年以内に耐用年数が経過し、施設や管路等の修繕更新が必要になってくる。

昨年夏には実洲川の水量が低下し取水が危ぶまれるなど、水源の確保についても課題となっている。

【県への要望】

山形県に対し、令和8年度の当町の重要事業要望で「白鷹町及び周辺地域による水道事業広域化に向けた取り組みへの支援を図ること」について要望を行った。長井市及び飯豊町も要望を行っている。

【検討経緯】

県の支援により「西置賜ブロック水道広域化検討会」が設置され、すでに2回の会議が行われている。

【各施設の現状】

■白鷹町

・津島台浄水場
○表流水を取水し、急速ろ過で浄水処理をしている。降水量が少ないと取水が不安定となる。

■飯豊町

・小白川浄水場
○表流水を取水し、急速ろ過で浄水処理をしている。河川が高濁度になると取水停止となる。粉末活性炭で臭気対策をしている。施設は老朽化している。

■長井市

・平山浄水場
○水源の水質・水量とも良好であり、浄水処理は塩素消毒のみ。施設は老朽化している。

【今後の方向性】

国の水道広域化モデル事業を活用し、西置賜ブロック水道広域化検討会等で検討を進める。



津島台浄水場の沈殿槽

【調査】

「空き家」の実態調査を、令和7年5月に、各自防災組織の協力を得て、また、所有者へのアンケートを11月に実施した。

【結果】

○「空き家」は町全体で1013棟（令和4年度比103棟増）となっており、確実に増加している。
○所有者アンケートの回答数：217件（回収率60・4%）
・設問①建物の利用状況
↓回答（常時：50件）
（年に数回：69件）
（利用していない：78件）
・設問②管理に困っていること（多い順）
↓回答（解体費用の捻出、老朽化や雑草、自宅から遠い など）

空き家、危険棟の増加が続く

「第3期白鷹町空き家等対策計画（案）及び空き家等に関するアンケート調査結果」について説明を受けた。

・設問③利活用の予定

↓回答（予定あり8・3%）（将来的に22・5%）（条件次第で36・5%）（しない、できない32・5%）

質疑

空き家バンクの周知

委員 空き家の所有者の7割が利活用を考えているが、空き家バンクへの登録件数は約20件で差がある。情報発信をどう考えるか。
当局 登録件数を増やすためには周知徹底が必要。これまでの周知

空き家件数（内、危険）と空き家棟数（内、危険）

年度	蚕桑	鮎貝	荒砥	十王	鷹山	東根	合計
件数	121	145	143	35	88	95	627
危険	14	14	11	2	18	6	65
棟数	216	209	217	50	157	164	1013
危険	26	21	16	4	29	11	107

方法に加え、それ以上の周知のあり方についても検討していく。
委員 空き家バンクへの登録手続きは複雑であり、補助や支援があっても良いのでは。
当局 登録は複雑と思われる。協議会や担当者会で検討したい。

その他
○白鷹町下水道事業経営戦略の改定（案）について説明があった。